

『ペンギンはなぜ飛ばないのか？』

海を選んだ鳥たちの姿』(2013年)

綿貫 豊／著 恒星社厚生閣

進化の過程で飛ぶことよりも泳ぐことを選んだ海鳥たち。彼らの体はどんなしくみになっているのだろう。飛ぶと泳ぐとでは、使う筋肉から必要とするエネルギー量まで、何もかもが違います。本書は、ペンギンやアホウドリなど、海辺に生きる鳥たちの生態を比較しながら詳しく解説しています。また、海鳥たちの個体数の減少には人間が大きく関わったことも書かれており、人間が自然界に及ぼす影響についても考えさせられます。



『海の訓練ワークブック』(2015年)

公益社団法人 日本海洋少年団連盟／監修
成山堂書店

この本では、海を知り、海を親しむために必要な知識や訓練方法をわかりやすく紹介しています。海の満ち干きのしくみや手旗信号も学べます。カッターとカヌーの乗り方も学べます。私たちがあまり知らない海の交通ルールについても触れています。

また、船員のしごとと役割というページもあり、どんな仕事をしているのか、階級などについても書かれています。職業調べにも使える一冊です。



『もっと知りたいターナー生涯と作品』

(2017年)

荒川 裕子／著 東京美術

ターナーは水彩画、油絵、どちらの技法も極めた画家でした。14歳にしてロイヤル・アカデミーに入学した彼は、早くから才能を発揮し、生涯を閉じる間際まで描き続けました。中でも、海が題材の《海上の漁師たち》は、海景画の伝統を踏まえつつ、大きな波のうねりや抗い進む船という、荒々しい素材を繊細な筆遣いで表現した魅力的な作品です。

作家・作品に詳しくなれる、「もっと知りたいシリーズ」は現在、61冊所蔵しています。

『無人島セレクション』(2014年)

無人島セレクション編集部／編 光文社

「もしも無人島でひとりぼっちになるとしたら、何を持っていく？」人生で一回は受けたことのあるほどメジャーなこの質問を、今回は『レコード』『映画』『本』をそれぞれ種類ずつと回答の幅に制限をかけて、十八人の男性作家陣にぶつけてみた。

「自分だったらこれを持っていく」と考えてから、彼らと話をするような気持ちで、この本を開いてほしい。きっと、いい経験になるはずだ。



『深海と深海生物美しき神秘の世界』

(2012年)

ナツメ社

海の成分から深海に生息している生き物など、いまだに謎が多い深海を詳しく解説。世界トップの日本の有人潜水調査船「しんかい6500」の活躍や、しんかい6500の技術開発を担う海洋工学センターのかたのインタビューも収録。深海生物たちが暮らす水深ごとに美しい写真や詳しい解説とともに紹介します。地上や浅瀬では見られない独自の進化を遂げた美しくも不思議で、魅力的な深海生物たちや深海の様子をのぞいてみよう！



『宝島』(2000年)

スティーヴンスン／著 海保 眞夫／訳
岩波書店

この物語は少年ジムが頬に刀傷がある老船乗りと出会うところから始まります。その男は元海賊で、一本足の船乗りを警戒していました。男は、仲間から奪い取った宝の地図を隠し持っていた為、仲間を狙われていたのです。

意図せずして地図を手に入れたジムは医者であるリヴシー先生やコックのシルヴァー達と財宝を探しにいきますが、恐ろしい裏切りにあってしまいます。みなさん、ジムと一緒に、冒険の旅に出掛けてみましょう。



